ろう学校と議員との意見交換会の要旨

○参加者 議員：まきやま議員、虎島議員 学生：ろう学校2年生1名、1年生3名

○発表テーマ：みんなが暮らしやすい街づくり

○意見交換会要旨

(虎島議員)

初めにろう学校の皆さま、発表お疲れ様でした。当事者としてですね、必要な要望や、生活に必要なことってというのがよくわかりました。

(まきやま議員)

最初、初めに声を出す前に手話でされた時にハッとさせられて、これは普段考えてなかったなと実感しました。そして、説明を聞いていると、確かに耳が生きづらい人達の生活環境が整ってないなと理解して、どうやったら、県議会を通してみんなのために暮らしやすい環境を作り出せるか考えながら聞いていました。

(虎島議員)

私も実は大学生のときに手話サークルを友達と立ち上げた。しかし、今では使わなくなったことから、ほとんど忘れてしまったのですが、このような経験を活かして政策を実現できればと思っています。発表してみても感想はどうでしたか。

(生徒)

一番はやっぱり緊張した。途中で想定していなかったこともあったけど、そこを何とかカバーできたのは良かったと考えている。議員の皆さまの前での発表ということもあって、何度も練習したけど、本番で一番良い発表ができた。

(虎島議員)

実は、長崎県は、「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を独自に制定しています。基本的には差別のない社会を目指しており、条例の中で皆さまが生活しやすいように合理的配慮を行うことを定めている。この条例を元に具体的に何かしようとする、皆さんの意見が必要になる。

普段生活していて、政治家にこれが言いたいっていうのは思いつかないし、何となく近づきづらいと思うところがあるかもしれませんが、気軽にお声かけください。

(まきやま議員)

いろいろご提案いただいた中で、一番実現してもらいたいものってありますか。

(生徒)

YYプローブ（音声認識して文字にするアプリ）です。

(虎島議員)

今では、音声認識ソフトがすごく発達してて、スマホアプリでは喋ったことがどんどんどんどん表示されるから、それを一般的に表示するような機器があれば、助

かりますよね。どういった場面で必要と感じますか。

(生徒)

例えば、コンビニであるとか、後は市役所、病院などにYYプローブがあったらいいなと思う。

(虎島議員)

その他、何かご要望やご意見などないですか。

(生徒)

ひとつ思うところは、マスク。口元が見えないので、マスクが透明になれば、マスク越しでも口元を見て、相手の話していることの理解がしやすくなる。

(まきやま議員)

手話をあまり使わない方もいらっしゃるのですか。

(生徒)

私は、小中学校までは普通の学校に通ってたので、その時は全く手話を使わなかった。手話は、ろう学校に来てから覚えてできるようになった。

(生徒)

聴覚障害がある方とコミュニケーションを図るため、何か努力されていることはありますか。

(まきやま議員)

私は先月初めてお会いした方で、急に歩けなくなって、言葉がでなくなった方から相談を受けてから、一緒になって手話を勉強しています。

(虎島議員)

SNSなどいろんな媒体を使って情報を発信しています。私は、医者なので、命を救うってところが一番の使命なので、そこは継続して行っていきたい。

(まきやま議員)

Youtubeとか見られますか。字幕とかあった方がいいと思いますか。

(生徒)

字幕なしでも見れる時はありますが、アニメとかは字幕があった方が内容がわかりやすい。

(まきやま議員)

今日はありがとうございました。

私の方がもう本当に勉強不足で学ばせていただくところがたくさんありました。

みんなの印象のとおり議員さんは怖くないです。

公僕といって、先生でも何でもなくて、皆さんの代弁者だから、みんなの声を県に届けるっていうのが仕事なので、何でも遠慮なく伝えてもらえれば、我々頑張っていきますので、ぜひよろしくお願いします。

4月から手話勉強して、上達したら試しにやってみますんで、今度、先生になってもらって、ご指導していただければと思う。